

# はばたき

大分大学教育学部  
附属小学校便り  
平成28年9月7日号

## 2学期が始まりました（その2）

指導教諭 山田眞由美

前号で紹介した子どもたちの決意表明の続きです。今回は2, 4, 6年生の代表の子どもたちの発表内容を紹介いたします。



<2年1組 塩月 小絵さん>

わたしは、2学期にたくさんの人に喜んでもらいたいと思います。

まず、1学期から頑張っている「先手あいさつ」「トイレのスリッパそろえ」「チームそうじ」に続けて頑張ります。一度止まって相手に目を見て先手あいさつ。相手も自分もピッタリそろえていい気持ちのトイレのスリッパ。無言ですみずみするチームそうじ。続けると喜んでくれる友だちも先生もお客さんも、きっとふえると思います。

次に、「おぼんごみゼロ」にがんばります。いつもおいしい給食を作ってくれる調理員さんが喜んでくれるように、自分のおぼんはもちろん、友だちのおぼんを見て、気づいたことがあれば声をかけたいです。

最後に、おうちの人に喜んでもらえるように頑張ります。そのために毎日の授業でたくさんの発表をしたり考えたりして、たくさん勉強したいです。

このようなことを毎日続けて頑張って、たくさんの人に喜んでもらってわたしの心もピカピカにみがいっていきたいです。

<4年1組 和田 彩音さん>

私は1学期に学級委員に立候補しました。4年生の学年目標は「ジャンプ」です。自分たちで取り組むこと、みんなのために取り組むことをめあてに学年集会をみんなで創り上げながら活動を進めました。

あいさつでは、自分から先にあいさつすることを提案し取り組みました。自分からあいさつすると気持ちよく1日がスタートできます。全校や四校園にも広めることができ、うれしいです。これからは学校以外の場所であった人にあいさつしていきたいです。

チーム掃除では、2年生に教えることに取り組みました。拭き方のコツを話し合い、拭き方をみんなで練習しました。手の小さい2年生が一生けん命拭き、上達した時はうれしかったです。2学期は、チーム全体のお手本になれるように、全体の様子を見ながら取り組んでいきたいです。

おぼんのごみゼロ運動では、1学期53回中40回達成することができました。他の学年と競い合いながら高め合うことができました。これからは、おぼん以外にも床にごみを落とさないなど、付けた力を生かしていきたいです。

2学期は1学期よりもさらにレベルアップを目指します。もっと力を付けて、自分たちで運動会や歌声を作っていきたいです。そして、高学年に向けて、みんなのために行動できるようになりたいです。

<6年1組 南部 朔太郎さん>

ぼくの2学期の目標は「挑戦」です。

1学期のぼくは、自信のないことや出来そうにないことから逃げてしまうことがありました。

例えば学習では、「速さの勉強は苦手だから」「記述で答える問題は難しいから」などと、自分で言い訳をしながら、できない自分を許して、できるように頑張ろうと挑戦しなかったことがあります。生活の面でも「ぼくにはできそうにない仕事だな」「誰かがやってくれるだろう」と自分の力を試さずに、楽な方を選ぶということがありました。そんな自分はダメだなと思っていても、なかなか変わらない自分もいました。

この夏休みに、ぼくは苦手な算数の文章問題に頑張ろうと決めました。難しい文章問題を選び、解いていきました。時間がかかるし、なかなか正解しなかったけれど、少しずつできるようになってきました。できるようになるとうれし

たし、苦手なことに挑戦してやりとげることで、自分への自信や達成感がわいてきました。挑戦することの心地よさを感じることができました。

2学期の最初の日の今日、ぼくは1つの挑戦をしています。それはこの発表です。ぼくは、こうして人前で話すのは、得意ではないし、好きではありません。やる気はあるけど、とても緊張してしまい、うまく話せないことがあるので、ぼくにはとても勇気がいることです。でも、「勇気を出してやってみよう」と立候補しました。上手に話せていないかもしれないけれど、挑戦できたということが大事だと思っています。このことを忘れずに、2学期は毎日小さな挑戦を積み重ねて、自分を磨いていきたいと思います。

これからの行事や生活の一つひとつが、ぼくたち6年生にとっては「小学生生活最後」のものになります。九重も運動会も、入試も、みんなで一つひとつ全力で最高を目指して挑戦し、自分たちを磨いていきたいです。



1学期に学んだこと、1学期に踏み出せなかったことを糧に2学期にどう成長していくか、自分も周りもどうあればよいのかという思いが文章からあふれています。今年より、子どもたち一人ひとりが自己の成長を見つめなおし、文章として残すという「成長ノート」に取り組んでいます。

もちろん、今までも子どもたちは自他の成長を振り返る活動をしてきましたが、声に出した言葉は残念ながら消えてしまいます。「自分の成長」という年間通したテーマで自分を見つめ、残すことで子どもたちは自分の成長や課題を実感できているのではないかと感じます。

2学期の子どもたちの成長が本当に楽しみです。

### 九数教, NIEのお礼

7月26日の九州算数・数学教育研究大分大会がありました。暑い中、1年3組と4年1組の子どもたちが、本当によく頑張ってくれました。おかげで県の算数部会の研究によい協力ができただけではないかと思えます。

また、8月4日のNIEの全国大会では2年1組、4年2組、5年3組が新聞を使ったフリートークを公開しました。各新聞社でも取り上げられましたが、全国版でその記事を読まれた方（東京の方）から連絡があり、お褒めの

言葉を頂きました。実際に参観された方や記者の方からも、「附属小学校の子どもたちの発言内容が素晴らしかった」「日常的な取組がよい」などの言葉を頂き、NIEの今後の発展に向けてよい取組が発表できたのではないかと思います。



夏休み中の公開授業という事で子どもたちはもちろん、保護者の皆様の協力なしには実現しませんでした。紙面を借りてお礼を申し上げます。有難うございました。

### 地域の見守りに感謝

先週の木曜日、地域の方からこのような連絡をいただきました。「登校中の附属の子どもたちが駅のホームからエスカレーターを全速で駆け下り改札を抜け、バス停まで一目散でしたよ。恐らくバスの時間があるからだろうけれど、危ない（本人たちにも周りの人にも）のでは」というような内容でした。早速生活指導の鳴川先生に事情を説明し、翌日指導をしてもらうようにしました。しかし、鳴川先生は、翌朝大分駅に行き、子どもたちに直接指導してくれました。すると早速知らせて下さった方から連絡が・・・。「さわやかな朝の指導でした。時間外なのに、笑顔でやさしく子どもたちに接していました。これぞ教育ですね。」と。次の朝も気にして様子を見てくれたのでした。

子どもは、間違えますし、失敗もします。そのたびに私たち学校はご指導やお叱りを受けることもあります。しかし、大切なのはその後だと思っています。それを指導の機会と捉え、生かしていくことが大切なのだ。

正しいことでも人に注意するのは、決して気持ちのいいことではありません。相手のことを思っていればこそその注意なのに、人によっては伝わらず、逆ギレされたなんて経験はどなたもあるのではないのでしょうか。それでも言ってくくださるのは本当にありがたいことです。もし、知らせていただかなければ、我が校の子どもたちは大きな事故に遭ったり、加害者になったりしたかもしれません。地域の方がこのように我が校を見守り、また、変わろうとする姿を評価して下さるのは本当にありがたいことだと思います。これからも、地域の方々の期待に応えるべく、さらに子どもたちへの指導、支援を続けていきたいと考えているところです。